

と比較的よく相関していた。Dynamic image が陽性の症例は、いずれも静脈造影にて内精巣静脈は径5 mm以上と拡張していた。また、Static image にて強い集積が見られた。Static image にて集積の弱い症例の多くは、腎静脈造影にて内精巣静脈への造影剤の逆流は見られなかった。治療として塞栓術が行われた症例に核医学検査を反復して行い、効果判定に有用であると考えられた。

13. 頭頸部腫瘍の頭蓋内進展に対する骨 SPECT の有用性

山本 洋一	吉田 祥二	西本 均
吉田 大輔	上池 修	前田 知穂
		(高知医大・放)
赤木 直樹		(同・放部)
岸本 誠司		(同・耳)

頭頸部悪性腫瘍の頭蓋底、頭蓋内浸潤の有無はその治療方針、治療後の予後に大きな影響を及ぼす。今回われわれは頭頸部悪性腫瘍7例に骨 SPECT を施行し頭蓋底骨浸潤の診断を試みた。これに際し、頭蓋底の神経血管孔の位置を知るため乾燥頭蓋骨を用いて SPECT を施行した。その結果、篩板、上眼窩裂、卵円孔、破裂孔、頸静脈孔を明瞭に把握し得たが、内耳孔、舌下神経管は頸静脈孔との重なりのため描出し得なかった。症例では眼窩下壁、卵円孔、側頭骨錐体、頸静脈孔への浸潤を正確に描出し得た。腫瘍が大きかったこともあり CT, MR でもほぼ同様の結果が得られた。骨 SPECT は頭蓋の複雑な骨の重なりを避けることができ、頭蓋底骨浸潤の早期診断に有用な方法となり得るものと思われる。

14. 骨シンチグラムにて肝のびまん性集積を示した肝アミロイドーシスの1例

吉田弘太郎	中村 一彦	謝花 正信
勝部 吉雄		(鳥取大・放)

症例は56歳女性で主訴は上腹部痛であった。検査にて胆石が認められ、胆嚢摘出術を受けた。肝臓、胆嚢の組織標本において、アミロイドと思われる硝子様物質の沈着が認められた。免疫電気泳動にて、IgA型の高γグロブリン血症が認められ、骨髄腫に伴った肝アミロイドーシスと考えられた。腹部CTでは肝脾腫を認める以外

特に異常を認めなかったが、肝シンチで肝の集積不均一、骨シンチにて肝腫大、肝のびまん性集積を認めた。

アミロイドーシスでの骨シンチ核種の集積機序は不明であるが、アミロイド中のカルシウム濃度が高いことが証明されている。

アミロイドーシスのスクリーニングとして骨シンチグラムの有効性が考えられる。

15. 骨シンチグラムにて肺のびまん性集積を示した1例

中村 一彦	吉田弘太郎	謝花 正信
勝部 吉雄		(鳥取大・放)

症例は48歳の女性で、慢性腎不全のため約10年間血液透析を行っている。咳嗽、喀痰喀出困難を主訴として、昭和63年2月19日、当科を受診した。血液生化学的には、血清Ca値、P値、Ca×P積値の上昇と、C-PTHの増加があり、呼吸機能検査は、%VC、FEV_{1.0}%ともに正常範囲内であった。胸部単純X線写真、胸部CTともに肺野に異常所見を見いだすことができなかったが、^{99m}Tc-MDPによる骨シンチグラム上両側肺野全体の強いびまん性集積が認められた。

慢性血液透析患者においては、積極的に全身骨シンチスキャンを行うことが、metastatic pulmonary calcificationの早期発見になると思われる。

16. 原発巣に^{99m}Tc-MDPの集積を認めた肺小細胞癌の2例

広瀬 孝男	沖田 功	西垣内一哉
三浦 剛史	折橋 典大	丁子 卓
横山 敬	中西 敬	(山口大・放)
福山 勝	岡本 安定	
		(徳山中央病院・放)

^{99m}Tc-MDPが原発性腫瘍内に集積した肺小細胞癌の2症例を経験した。2例とも腫瘍内に石灰化があった。1例では8か月前の胸部X線像が検討できたが、発育の遅い腫瘍であり、長期間にわたって存在した壊死巣に石灰化機転が働いたと推定された。原発巣が巨大であるにもかかわらず肺門リンパ節転移、遠隔転移がみられなかった。肺小細胞癌としてはきわめて特異的な放射線学的所見、臨床像を呈していた。